

# 鹿児島純心女子短期大学での 「市長と語る会」発言に対する対応方針

〔開催概要〕

日時:令和8年1月14日(水)15:20～16:10

場所:鹿児島純心女子短期大学

鹿児島市 市民協働課

# 「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和8年1月14日（水）15:20～16:10  
場所：鹿児島純心女子短期大学 2号館1階103教室

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	鹿児島純心女子短期大学大学生	<p>タイトル：「忘れさせない“戦争”」</p> <p>私たちは「忘れさせない戦争」をテーマに、鹿児島がどのような戦争体験をしてきたか調べました。世界で争いが続く今、身近な地域の歴史を知ること、平和の大切さをより深く実感できると考えたからです。</p> <p>鹿児島は戦前から多くの若者が戦地へ送り出された地域であり、知覧や鹿屋には軍事拠点がありました。さらに1945年には鹿児島市は計8回の空襲を受け、特に6月17日の大空襲では2,316人が亡くなり、市街地の93%が焼失しました。このように鹿児島は戦争と深く関わってきました。戦争を伝える場として、知覧特攻平和会館は年間約40万人が訪れる県内有数の資料館です。特攻隊員の遺書や遺品が展示され、映画化された作品の影響もあり若い世代の来館が増えています。</p> <p>一方、沖縄には住民が避難した「ガマ」が多数残り、暗さや狭さを体験しながら戦争の現実を学べる場として重要視されています。アブチラガマやチビチリガマでは、住民の避難生活や悲劇が今も語り継がれ、年間多くの人が訪れています。</p> <p>長崎では原爆の記憶を守り、資料館や公園で平和教育が続けられていますが、戦争遺構の老朽化が課題となっています。</p> <p>他都市と比べると、広島や長崎が原爆の記憶を世界に発信し、沖縄が地上戦の体験を強く伝えているのに対し、鹿児島は特攻や空襲を中心に主に国内向けに記憶を伝えてきました。しかし鹿児島市には目に見える遺構がほとんど残っていません。</p> <p>そこで私たちは、VRで戦時中の街並みを再現し、多言語音声で国内外の人に伝える取組を提案します。さらに戦時中の実物の手紙や遺書をデジタル化し、多言語翻訳や朗読機能を加えた「デジタル遺書アーカイブ」を作ることで、若い世代や外国人にも学びやすい環境をつくることができます。</p> <p>戦争体験を語る人が減る中、技術を活用して記憶を未来へつなぐことが今求められています。鹿児島の戦争の歴史を「過去の出来事」で終わらせず、平和を守るための学びとして次世代へ伝えていくことが大切だと考えます。</p>	<p>非常に重要なテーマを扱っていただきました。皆さんの世代は家庭で戦争の話聞く機会は少ないと思います。だからこそ、このような学びは次の世代に受け継ぐうえで大切だと思います。</p> <p>戦争は「正義と正義のぶつかり合い」であり、それぞれ自分は正しいと思って行動するところに衝突が起こります。鹿児島空襲でも、アメリカ側の考えがあり、原爆についても、アメリカの一部の人は「正しかった」と主張する人がいます。私たちからすれば到底、受け入れられないことですが、相手がどう考えているのかを理解することは、平和を考えるうえで非常に大切なことだと思います。</p> <p>ニュースを見るときも「なぜ戦っているのか」「お互いの正義は何か」を考える習慣を持ってほしいと思います。</p> <p>「戦争は外交の失敗」とも言われます。お互いの正義を出し合っ、それを解決できないときに戦争が起こる。だからこそ、どうすれば戦争を避けられるかを考えることが重要です。皆さんの発表は、若い世代が自分たちのテーマとして考える非常に良いきっかけになる内容でした。</p>	総務局	市長回答のとおり
2	鹿児島純心女子短期大学大学生	<p>タイトル：「多文化共生のかごしま」</p> <p>私たちは多文化共生の鹿児島をつくるため、日本と鹿児島の外国人労働者の現状を調べました。全国的に外国人労働者や留学生は増加しており、鹿児島県でも同様に増え、特に東南アジア出身者が半数以上を占めています。</p> <p>しかし「外国人が住みたい県ランキング」では鹿児島は上位に入らず、九州内でも5位でした。外国人は介護や観光など多くの現場で重要な役割を担っていますが、言葉や文化の違いから生活に困る場面も多くあります。そこで、鹿児島市が誰にとっても暮らしやすいまちを目指すための環境整備を考えました。</p> <p>まず、言語サポートとして、既存の対面・電話相談に加え、LINEやチャットで気軽に相談できる窓口を提案します。話すことに抵抗がある人でも利用しやすいからです。</p> <p>次に、安全なアルバイト情報を市のホームページで一括掲載することを提案します。信頼できる情報源を示すことで、外国人が安心して働ける環境につながります。</p> <p>また、生活ルールを分かりやすく示す工夫も必要です。鹿児島市ではごみ出しの分別が細かく、出す日、時間、場所も厳しく決められているのに対し、海外では分別が簡単で時間や場所も柔軟な場合が多いため、分かりやすく示す工夫が必要です。</p> <p>また、五感を使った交流として料理交流会を提案します。料理を通じて言語の壁を越え、自然に文化理解が深まり、短時間でも強い一体感が生まれます。</p> <p>次に、語学交換イベントを提案します。お互いの言語を教え合いながら交流するイベントで会話のきっかけが生まれやすく、言葉だけでなく食文化などについて話す機会が増え、文化理解や地域への溶け込みにもつながります。</p> <p>それらのイベント案内はLINEを活用します。LINEは通知で気づきやすく、画像やスタンプで直感的に伝えられます。また、多言語対応や双方向のやり取りも可能で参加への不安を減らすことができます。</p> <p>以上の多言語支援、労働環境整備、生活ルールの可視化、交流プロジェクトを通じ、外国人が安心して暮らし地域とつながれる鹿児島を目指します。外国人に優しいまちは、すべての人にとっても住みやすいまちです。鹿児島市が多文化共生を進めることで、「外国人が住みたい県ランキング」九州3位以内を目指すことは十分に可能だと考えます。誰もが安心して暮らせる鹿児島を目指し、これからの鹿児島づくりを進めていきましょう。</p>	<p>県内では外国人労働者が農業の技能実習生として働く例も多く、かつては「日本は東南アジアから選ばれて当然」という状況でしたが、今は台湾や韓国など日本よりも収入を得やすい国が増えており、選ばれるためには、外国人から見て魅力的な環境をつくるのが大切になっています。</p> <p>特にごみ出しは多文化共生の基本であり、ルールを守れないことが「外国人はトラブルを起こす」という誤解を生む危険があります。そのため、早い段階で市民との調和を図る工夫が必要です。</p> <p>鹿児島市では、外国人労働者は企業が呼びこむ形が多いため、企業向け相談体制を整え、町内会やごみ出しルールを企業からしっかり伝達してもらう仕組みづくりを進めています。これは今回の提案とも方向性が一致しています。</p> <p>皆さんも今後、留学や海外で働く場合は、是非スキルを身に付けてください。多くの国では「スキルのある外国人は歓迎、そうでない人には厳しい」という現実がありますので、確かなスキルを身に付け、さまざまな場で活躍できるよう準備してほしいと思います。</p>	総務局 環境局 産業局	市長回答のとおり